

教科名	国 語		
	履修学課	普通科	
科目名	国 語 総 合		
	履修学年	第一学年	
	履修形態	必 修	
教科書	履修単位	5 単位	
	履修条件	な し	
副教材	○『新国語便覧』(第一学習社) ○『完全マスター古典文法』(第一学習社) ○『漢文の習得』(浜島書店) ○『古典文法ワークノート』(第一学習社) ○『読み解く古典1』(浜島書店) ○『論読現代文1』(浜島書店) ○『みるみる覚える古文単語300+敬語30』(いいずな書店) ○『字義で覚える常用漢字』(浜島書店) 国語辞典・古語辞典		
科目目標	国語を適切に理解し的確に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに思考力を伸ばすと共に、言語感覚を磨き豊かな心情を育むことで、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。		
学習計画	単 元 名	内 容	評価方法
4月	小説 「羅生門」	○小説の基本的な読解放法を習得する。 ○登場人物の性格・心理・行動を的確に読み取る。 ○近代の代表的な小説を読み、おもしろさを味わう。 ○作者に対する理解を深める。	①定期考査 ②課題の提出状況 ③授業の取り組み方 ④漢字テスト・小テスト
5月	古文 「古文の学習」 「児のそら寝」 「絵仏師良秀」	○古文に親しみをもち、構成や展開を把握し、口語文と文語文の違いを理解する。 ○登場人物の行動や心情を読み味わう。 ○品詞や活用など、古文の基礎知識を身につける。	
6月	漢文 「漢文の学習」 「漢文入門」 「故事成語」	○漢文訓読のきまりを理解する。 ○漢文に親しみ、漢文の表現に慣れる。 ○話の内容の理解と、現在の意味の違いを理解する。	
7月	評論 「絵はすべての人のつくるもの」	○評論の読み方を習得する。 ○芸術に触れることが自分を創造することになるという筆者の主張から、未来への抱負を新たにすると	
	古文 動詞の活用	○古典文法の基礎知識を身につける。	
	古文 『竹取物語』「かぐや姫のおひたち」 『伊勢物語』「芥川」	○昔話としてなじみのある作品から、古文に親しむ。 ○構成や展開を把握し、登場人物の心情を味わう。 ○用言の活用や修辭法を理解する。	
	漢文 「漁父之利」 「虎の威を借る」	○平易な漢文に慣れ、訓読のきまりを確認する。 ○中国の史伝の簡潔な表現を味わい、格言や成句などを正しく理解する。	
8月 9月	評論 「水の東西」	○二項対立的な評論の読解方法を習得する。 ○西洋文化と日本文化の特徴について理解する。	
	古文 形容詞・形容動詞の活用	○古典文法の基礎知識を身につける。	
10月	小説 「旅する本」	○論理的な文章の構成を理解し、文章の内容を叙述に即して的確に読み取る。 ○身の回りの物事のあり方について理解し、ものの味方や考え方を深める。	
	古文 『伊勢物語』「東下り」「筒井筒」	○登場人物の行動や心情を読み味わう。 ○歌物語における和歌の役割を理解させる。 ○助動詞について理解し、口語訳に生かす。	
	漢文 「蛇足」 「論語」	○現代の成語の元である史伝を正しく理解する。 ○中国の代表的思想である儒家思想を学び、孔子の思想が現代ではどのような意味を持つか考える。	
	評論 「『映像体験』の現在」	○映像文化の発達による変化を読み取る。 ○映像が氾濫する時代の生き方について考える契機とする。	
11月	古文 助動詞の活用	○古典文法の基礎知識を身につける。	
	古文 『徒然草』 「丹波に出雲といふところあり」 「花は盛りに」	○随筆の文章表現の特色について理解する。 ○自然や人間に対する作者の思想感情を理解する。 ○助動詞・助詞・反語について理解を深める。	
	漢文 「完璧」 「先従隗始」	○長めの文章を読み、漢文の読解に慣れる。 ○漢文に親しみ、歴史物語のおもしろさに味わう。	
	小説 「城之崎にて」	○文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して、読み味わう。	

1 2月	古文 『土佐日記』 「門出」「帰京」	○日記文学を味わい、古典理解に関する基礎知識を身につける。 ○古典文法の基礎知識を身につける。
	短歌・俳句 「その子二十」	○短歌・俳句に親しみ、それぞれの形式や表現の特色を理解する。 ○作品にうたわれている情景や心情を、表現に即して読み味わう。
1月	評論 「グローバリズムの『遠近感』」	○評論の読解方法を習得する。 ○グローバル化された世界についての認識を深め、問題意識を喚起する。
2月	漢文 漢詩の鑑賞「唐詩の世界」	○詩文に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。 ○漢詩の形式や表現について理解する。
	小説 「夢十夜」	○夢幻的な雰囲気の小説を読み味わう。 ○登場人物の心理・行動を的確に読み取り、近代短編小説のおもしろさを味わう。
3月	古文 『平家物語』 「木曾の最期」	○戦いの中での人間の心理の動きを読み取る。 ○軍記物語での文章表現の特色について理解する。
	古典文法の復習、問題演習	○古典文法の知識を定着させる。 ○応用力をつける。
評価規準	関心・意欲・態度	○国語や言語文化に対する関心を深めることができたか。 ○国語を尊重し、積極的に理解し、表現したり伝え合おうとしたりしたか。
	話す・聞く	○様々な場面において自分の考えを持ち、筋道を立てて意見を述べることができたか。 ○目的や場面に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすることができたか。
	書く	○相手や目的に応じて、構成を工夫して適切に文章にまとめることができたか。
	読む	○様々な文章を的確に読み取ったり、表現の特色をとらえたりすることができたか。 ○読書に親しみ、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりすることができたか。
	知識・理解	○表現と理解に役立てるために、文法、語句の意味、表記の仕方、常用漢字等を理解し、知識を身に付けることができたか。
担当者から	<p>○評価については、上記観点をふまえ、授業における形成的評価を中心としつつ、総括的評価も交えます。具体的には査査や提出物等の状況を材料に総合的に評価します。</p> <p>○「国語総合」では、みなさんが人生について考えを深め、人間性を豊かにし主体的に生きていくための基盤となる国語力を身に付けることを目標としています。そのために自ら学ぶ姿勢を持って授業に参加しましょう。</p> <p>○授業は予習を前提に進めます。「授業は予習でわからなかったことを確認する場である」という意識を持って臨んでほしいと思います。また、復習を行い学習内容が定着するよう心掛けてください。</p>	